

■ 学校の共通目標

授業作り	重 点	・ 基本的な学習の流れや一授業のめあてを明確にし、児童に見通しをもたせることや、授業のまとめや振り返りを確実に行うことで基礎学力の定着を図る。	中 間 評 価	・ 基礎学力の定着を図るため、基本的な学習の流れをどの学年も大切にして取り組んでいる。	最 終 評 価	
環境作り		・ I C T機器や具体物を活用し、視覚的に分かりやすい提示・教示を行うことで学力の向上を図る。		・ I C T機器や具体物を活用は、特に低学年の分かりやすい授業の一端を担っている。		

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課 題（10 月）	改善のための取組（10 月）	最終評価（2 月）	
1	国語	・ 基礎基本は身に付いているが、読み取ることや、文章を書くことに個人差がある。 ・ 漢字や平仮名、カタカナのはねやはらいを正しく書く力が少しずつ身に付いてきている。 ・ 言葉の宝箱（語彙表）を活用することで言葉に意識が向くようになってきた。	・ 文章の読み取りにおいて、言葉のまとまりや、大事な言葉を意識して読むことに課題がある。 ・ 書くことでは、書き出しでの躓き、文量を書くことに課題がある。 ・ 語彙を増やすだけでなく、活用することに重点をおく。	・ 音読の課題を毎日続けることで、言葉のまとまりや大事な言葉を意識できるようにする。さらに、教科書の文章に印を付けることで、意識すべき内容を確認できるようにする。 ・ 視写を継続することで、文章を書き慣れるようにする。さらに、「先生あのね」（日記）の活動も継続することで、題材を探すことにも慣れさせ、書き始めもスムーズに行えるようにする。 ・ 言葉の宝箱（語彙表）は、単元の内容に合わせて活用できるように、単元に合わせた語彙表を用意する。		
	算数	・ 足し算やひき算を繰り返し行うことで、計算の仕方や数の概念が定着してきた。 ・ どの単元においても、個人差が大きい。 ・ 時計の学習やかさの学習では、日常での活用をすることで定着を図れると考えられる。	・ 数が大きくなることで、数を正しく捉えられなかったり、計算ができなくなったりするなど、数の概念が曖昧になっている単元がある。 ・ 基礎の定着を目指す段階と、応用問題で発展学習を行う児童の差が大きい。 ・ 日常生活への活用の意識が低い。	・ 計算練習では、デジタルドリルを活用して繰り返し多くの問題を解けるようにする。さらに、教室に数の並び方などを掲示するなど視覚的に捉えられるようにする。 ・ 1 単位時間内で基礎と応用のワークを用意し、全員が自分のめあてに向かって取り組めるようにする。さらにデジタルドリルを活用することで、個々の課題に合わせる。 ・ 御家庭への呼びかけをすることで、時計の読み方やかさの学習の活用ができるようにする。		
学年	教科	学習状況の分析（4 月）	課 題（4 月）	改善のための取組（4 月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（2 月）
2	国語	<u>学</u> 語彙の習得について個人差が大きい。それにより、自分の思いや考えを文章化できない児童が多い。 <u>学</u> 話す際に、相手意識の低い児童が多い。また、聞き手としての態度にも課題のある児童が多い。	・ 語彙を獲得し、自分の思いや考えを文章化できるようにする必要がある。 ・ 相手を意識した言葉遣いが出来るようにする必要がある。	・ 言葉集めや、週末の日記の宿題等で語彙を増やしながらか、文章作りをし、言葉に注目できる機会を増やしていく。	・ 言葉集めや、週末の日記の宿題等に取り組ませることで、言葉に注目しながら文章を書こうとする児童が増えてきた。今後は、文章の書き出しや文末表現を具体的に指導し、自力で自分の思いを文章にできる力を育てていく。	
	算数	<u>学</u> 基本的な足し算、引き算の能力について個人差が大きい。得意としている児童はすらすらと解けるが、苦手としている児童は指を使って計算している状況である。	・ 一位数＋一位数、一位数－一位数の計算の習熟が不十分な児童の個別の支援が必要である。 ・ 繰り上がり、繰り下がりの計算を正確にできるようにする必要がある。	・ 朝学習や宿題等で、繰り返し計算練習をし、正確に計算できるように指導する。その際ドリルパークも積極的に活用していく。 ・ 計算ミスを軽減するために、筆算の書き方を統一する。	・ 朝学習や宿題においてドリルパークを活用することで、個別に支援を要する児童の一位数＋一位数、一位数－一位数を計算する力が身に付いてきた。 ・ 筆算の書き方を統一することで、計算ミスが減った。	
3	国語	<u>調</u> 区の平均値を上回り、おおむね良好である。しかし、話すこと、聞くことの領域では下回っている。	・ 話を正確に内容まで捉えることが苦手の児童が多い。 ・ 書字が安定しないので、字のバランスのとり方などを考えながら書く必要がある。	・ 友達や教員の発言を繰り返させる機会を設けるなど、普段から人の話を集中してきけるような工夫をする。 ・ 読む相手のことをより意識させ、丁寧に書字させる。	・ 人の話に集中して聞ける時間が全体として伸びてきた。今後も同様の取り組みを継続していく。 ・ 漢字テストやノートの自分の考えは丁寧に書いたり、連絡帳は自分が読める字で書いたりと使い分けられる児童が増えた。今後も同様の取り組みを継続していく。	
	算数	<u>調</u> すべての領域で、目標値は上回っているが、区の平均値では下回っている。	・ 九九の暗唱、時計の読み方、計算速度などの基本的な学力の定着に課題がみられる児童が多い。	・ 少人数指導で適切なコースに割り振り、昨年度の振り返りを交えて取り組めるようにする。 ・ 四則計算などは、折に触れて問題を解かせていく。	・ 昨年度の学習内容を随所に入れて振り返ることで、九九や計算速度については定着が高まった。今後も児童の実態に合わせて取り組みを継続する。 ・ 授業の開始数分で問題を解いたり、簡単なフラッシュカード式の計算問題を解いたりして、四則計算の精度が上昇した。	

4	国語	調 平均値を上回り、概ね良好であったが「書く」領域では下回っている。 学 語彙の定着に個人差がある。	・一定の児童のみが発表する姿が見られるため、自分の考えを書く、発表する、聞く、考えを深めるという授業形態をとることで、多様な考えに触れさせていく必要がある。 ・文章を書くことに関しては、自信をもって書けていない、詳しく書けない児童がいるため、考えを表現する機会を多く確保していく必要がある。	・ペア学習を多く取り入れ、まずは自分の考えを伝える活動を多く体験させていく。 ・書く単元の前には、ポイントやプロットをもとに、文章を構成させることで分かりやすい文章が書けるようにさせる。 ・書いた作品の読み合いをすることで表現の多様性に触れさせていく。 ・朝の会の１分間スピーチ等を通して、発表する機会を確保する。	・ペア学習やグループ学習の中で、友達の見解から自分の考えを見つけられるようになり、傾聴の姿勢を取る児童が多くなった。 ・書き単元では、ポイントやプロットをもとに、文章を構成させているが苦手意識が根強くある。そのため、ペア学習やグループ学習で文章のアドバイスを出し合ったり、読み合ったりする活動を多く設定している。	
	算数	調 全ての領域において目標値を上回り良好な結果だった。しかし、目標値に達していない児童も数名おり、理解の定着を要する。 学 3桁のたし算、引き算で目標値を下回っている。	・「たし算・ひき算」の正答率が低かった。乗法の筆算等でも正確に計算をすることが難しい児童がいる。 ・漠然と問題を解くのではなく、考えの根拠となるものを明確にして、課題解決することには必要がある。	・基本の四則計算の練習を定期的に家庭学習として出す。 ・単元の初めに、３年生の関連単元の復習を意図的に取り入れることで、学習のつながりから、考えの根拠を見つけていくことに慣れさせていく。 ・問われていることは何なのかを確認してから、学習に取り組ませていく。	・ドリルパークを復習として、次の単元の学習後に出すことで、既習の習得を図っている。 ・考えの根拠につながることは、どんな考えなのかを導入で確認し、本時の学習につなげている。 ・自力解決の前に、問題で問われている内容を理解するのに時間を要する児童が多い。そのため、何を考えていくのかを全体で確認している。	
5	国語	調 「読むこと」に関しては、目標値を越えている。また、「物語の内容を読み取る」についてもおおむねよくできている。 調 「書くこと」に関する問題の正答率が、目標値に対して全体的に低かった。 学 考えを書いたり、発表したりすることに苦手意識をもつ児童が多い。	・言葉に着目して全体を読み、登場人物の心情の変化に迫る読みに繋げていく必要がある。 ・書こうとする内容の中心を明確にしてどのように表現するかを理解し、活用していく力を育む必要がある。 ・自信をもって書けていない、詳しく書けない児童がいるため、考えを表現し発表する機会を多く確保する必要がある。	・ワークシートなどを活用して、全体を読む経験を増やしていく。 ・説明文の学習などで文の構成を意識して学習させ、文章を書く際にも文章の構成を意識して取り組むことができるように指導していく。 ・ペア学習を多く取り入れ、自分の考えを伝える活動から、全体へ共有する体験させていく。	・本文の中から心情が分かる言葉を書きぬき、比べる活動を通して、心情の変化について考えることができる児童が増えた。「言葉の宝箱」を使用して、心情を表す言葉を増やしていく。 ・モデル文を用意することで、文章の構成を意識しながら書くことができる児童が増えた。自分の伝えたいことをどのように伝えたとよいかさらに考えていけるようにする。 ・ペアで話し合ってから全体で共有することによって自分の考えに自信をもつことができるようになった。	
	算数	学 乗法、除法について全般的に理解が不十分な児童がいる。 調 「億と兆、概数の表し方」に関する問題の正答率が、目標値に対して全体的に低かった。	・乗法、除法の筆算等でも正確に計算をすることが難しい児童がいる。 ・学習した内容が定着しない児童が多いため、繰り返し学習していく必要がある。	・基本の四則計算の練習を、定期的に家庭学習等として出していく。 できるように、言葉での説明も重視する。 ・算数の授業中、概数の単元でなくても概数などについての問題を出題など、内容に触れることで理解の定着を図っていく。(通年)	・家庭学習で復習問題を出したり、授業の始めに計算練習を行ったりすることで定着した児童が増えた。引き続き行っていく。 ・前学年の内容に触れながら学習を行っている。	
6	国語	調 漢字の正答率、物語の読み取りは正答率が高い。漢字は書けるが、「連用修飾語に関する問題」や「自分の理由を明確にして文章を書くこと」は、目標値のポイントを下回っている。 学 知識欲が高く、新出漢字や新しい学習に興味をもって取り組んでいる様子が見られる。	・前年度までの漢字に対する理解が十分ではない。 ・文脈に沿った既習の漢字を適切に使用しようとする様子が見られない児童がいる。 ・文章を書くことに苦手意識がある児童がいる。	・授業者が意識し、前年度までに習った漢字に触れる授業を意識的に展開していく。 ・国語辞典、タブレット端末等を常に児童の身近に置き、文章を作る際は漢字を活用できるような環境を整える。 ・タブレット端末で文章を書くことを基本とし、誤字脱字による児童の意欲低下を防ぐようにする。	・各教科で既習事項の確認を行っている。 ・タブレット端末を活用し、文章の下書き等で活用している。また、国語辞典も併用できるよう、環境を整えている。 ・タブレット端末の活用と授業の工夫により、文章を書くことに抵抗感を感じる児童が少なくなってきた。	
	算数	調 全体的に目標値を上回り、よくできている。校内の平均正答率も８０点以上と算数を得意とする児童が多いことがうかがえる。 学 苦手意識をもつ児童も一定数いるが、全体としてよく発言し、論理的に説明できる児童が多い。	・「純小数同士の乗法」の問題が５ポイント目標値を下回った。また、「小数の除法を用いて説明する」が目標値を下回っている。 ・基本的な学力はあるが、それを応用させたり、それを使って説明したりすることに苦手意識をもっている児童がいる。	・タブレット端末を活用し、前年度までの既習事項も含めて家庭学習、空いている時間等の学習で反復練習をすることを基本とする。 ・授業において、「なぜそうなるのか」「既習事項を用いて説明しましょう」などと日頃から問いかけを基本とする授業を展開するようにする。	・空いている時間も活用し、反復練習を継続している。 ・応用できる児童や既習事項を活用できている児童を取り上げたり、担任が丁寧に説明したりすることで、苦手意識をもつ児童を巻き込みながら児童主体の授業を展開している。	

音楽	学 歌うことや楽器を演奏することに意欲的な児童が多い。昨年度に学年ごと仕上げた楽曲を発表したり、金管バンドの演奏を聴く機会が多かったためか、演奏をしたり聴いたりすることには興味があるようである。「こんな楽器を使ってみたい」「音楽を思い通りに仕上げたい」という思いが強い子供は多い。しかし、思いを言葉で表現したり、具体的に音楽表現につなげたりする方法を考えるのは苦手意識をもっている。	・楽器を使った演奏などは、音色の変化や合わせることの楽しさがあるためか、楽しみにしている様子であるが、歌唱は声を出すことに苦手意識をもつ児童が多い。また、楽譜通りに演奏することはできても、楽曲に特徴から表現を工夫する活動に移ると、思考が停止してしまったり、考えがあっても発表できなかったりする。	・歌唱に関しては、ワンフレーズなどに区切って短く歌う、机間指導を通して児童一人一人に声の特徴をつかんでアドバイスする、友達通しで声を聴き合ってよい所を見つけて認め合うなどの活動を取り入れ、声を出すことに対して抵抗を無くすようにする。 ・表現に工夫につなげるために、曲想を表した言葉や、表現の工夫の仕方の手掛かりになるような言葉を掲示し、適宜選択できるようにする。また、自分の考えを気軽に伝えられるよう、少人数での対話的な活動を取り入れたたり、ワークシートを活用して文章で説明したりする。	歌唱能力が向上してきた。安心して声を出せる環境づくりや手立てを講じたところ、自信をもって歌える児童が増えてきた。高学年になるほど、歌唱の能力や意欲に差が出てくる傾向があるので、本人の伸びしろをよく観察し、向上した部分を賞賛するなどして、指導を継続する。 掲示物の活用や、板書を用いて音を視覚化させるなどした結果、イメージが持ちやすくなったと実感している。少人数での話し合いや、ワークシートへの記入も効果的であった。児童からの発言が出やすくなったが、発言が一部の児童に限られたり、言語が限定的だったりするため、さらに広げられるようにしていく。	
図工	低 表現したいことをいきいきと表す様子が見られる。積極的に発言し、意欲的に授業に参加している。ただ、自信をもって取り組むことができない児童が何名かいる。 中 自分の表したいものを深めることができる児童が多い。ただ、周りの児童がどんなものを作っているのか気になりすぎる時がある。 高 挑戦してみようという意識が高く、自分なりに考えたことや感じ取ったことを表現できる児童も多い。意欲的に活動に参加する様子が見られる。ただ、考えを発表できる児童に偏りがある。	低 上手に描きたい、作りたいという思いが強いあまり、手が止まってしまう児童が何名かいる。周りの友人の作品を観て、自分の作品に生かそうとする意識の低い児童がいる。 中 一人で作品制作に向き合うことに苦手意識のある児童がいる。自分の作品に自信をもって取り組むことに課題がある。 高 感想に自信のもてない児童が多い。自分の思いや考えはあっても、発表ができないことがある。	低 上手に作りたいという意欲を大切にし、教師が個別に支援して制作に取り組むことができるようにする。児童同士がお互いの作品に興味をもって取り組むことができるように鑑賞の時間を十分にとる。 中 作品の上手さではなく、自分の思いや気持ちを大切にする姿勢を育てる。周りの人の作品を真似する前に一人で制作に向き合う時間をとることや、いろいろな人の考えに触れることができるようにする。 高 グループで課題に取り組むことや、ワークシートでの学習を行い、自分の考えに自信をもてるようにする。	低 自分の作品に自信をもって活動することができる児童が増えてきた。他の人の作品をみて自分の作品にいかそうとする様子も見られるようになった。 中 共同制作したものを自分の作品に生かす際に、自分自身でも工夫できるように声掛けを行った。今後もいろいろな考え方に触れられるように指導する。 高 グループでの意見は出るようになったが、依然として、発言する児童に偏りが見られるため、今後も継続して指導する。	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。